

「気になる子ども」へのかかわり方

福元 巧

1 発達的に見た学童保育の意味

5歳半ごろにみなぎり始める「生後第3の新しい発達之力」

「3つの世界」…「大小」の「2つの世界」から「中」の概念が形成

丸の系列化 etc.

「文脈形成力」 ← 学力の基礎になる力量

文脈形成力の背景にあるもの

文脈形成力は論理性を準備する

「3つの世界」と「3つめの場所」

家庭でも学校でもない「3つめの居場所」、そして家族でもクラスメイトでもない「仲間」

「論理性」の世界への飛躍(9才ごろ)はどのようにして達成されるのか

学童クラブはななかまづくり→「分断」の時代に「仲間(集団)」づくりをする意味

「集団」とは

集団づくりの実践は子どもに〇〇〇な力量を育てる実践

私たちがめざす集団とは「誰もが安心して表現し、自分として居ることができる場」

集団づくりのとりくみで育まれるもの

仲間＝親密な他者との交流や交渉により育つ「コミュニケーション能力」

仲間といっしょに、ひとつの目標や課題を達成することにより育つ「協力する力＝協調性」

異議申し立てできる力、他者にわかりやすく説明する力＝「自己表現力」

そしてこれらを支える「自尊感情」

2 「発達障害」について

発達障害の2つのタイプ

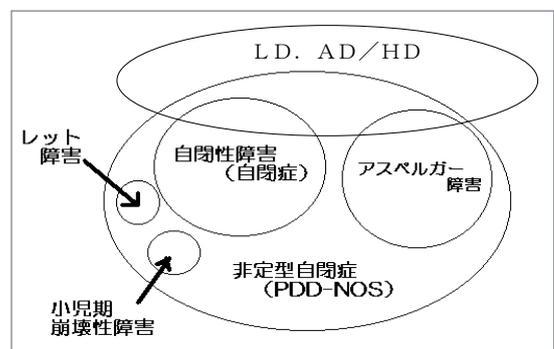
①自閉症スペクトラム

※スペクトラム＝「連続」という意味

つまり自閉の状態像は重度の人から軽度の人まで連続しているということ

自閉症スペクトラムの3つの軸の障害

- ・社会性の障害
- ・コミュニケーションの障害
- ・想像力の障害



自閉症スペクトラムと発達障害

一般的に発達障害とされているのは知的障害がない自閉症スペクトラムの人

②LD(学習障害)、AD/HD(注意集中欠陥多動障害)

LD＝基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指す(文科省)
※「ディスレクシア」への対応が急がれる

AD/HD＝不注意、多動性、衝動性の高い状態

LDは学業上の課題を抱えるのに対し、AD/HDは行動上の課題を抱える状態

発達障害児の特徴

①自閉症スペクトラム

- ・社会性では、人の気持ちを推測したりすることが苦手
- ・意思の疎通が困難であり、孤独感にさいなまれやすい
- ・コミュニケーション能力では、言葉は話せるが、しばしば一方的
- ・感情や情緒を表す言葉が苦手
- ・想像力では、大変限定された趣味を持ったり、変わったものをコレクションしたり、遊びの部分でかなりのこだわりを持つことが多い
- ・視覚、聴覚等の感覚分野において、過敏になる、あるいは鈍麻の混在
- ・手先の不器用、動作の不器用など
- ・字を書くのが苦手な場合あり

総じて「二分的価値観」と「マイルール」、「不確定の未来への不安」が集団生活の中で問題になることが多い

②LD、AD/HD

LD

- ・文字を習ったとしても理解できず、読むことができない。(読み)
- ・読むことができても、文字を書くことができない。(書き)
- ・簡単な計算であっても解けず、意味が理解できない。(算数)
- ・他人の話すことを聞くことができない。(聞く)
- ・聞くことができても、うまく話すことができない。(話す)

AD/HD

- ・物事に集中することができない 宿題を忘れたり、学習道具をなくしたりする
- ・落ち着きがない 席についていることができず、教室を歩きまわる
- ・突発的な行動を取る 順番待ちができない

3 気になる行動を科学する

- ・発言を抑制できない

「伝えたいことがある」ということは大切なこと、でも夢中になるとつい…

- ・行動を抑制できない

抑制できないほどテンションが上がるのはどんな時？

- ・すぐにかんしゃくを起こしてしまう

何が不安なのだろう、何が不安にさせているのだろう

- ・衝動的、乱暴
それほど強く自分を守らなければならないのはなぜだろう
- ・偏食、音に過敏
過敏は感覚が統合されていない姿。私たちはどのように感覚を統合してきたのだろうか
- ・一番じゃないと気が済まない
自閉症スペクトラムの子どもと二分的価値観、だけど4歳くらいまでの子どもにはよくある行動
- ・自分の世界に入って抜け出せない
これも自閉症スペクトラムの子どもによくある傾向、だけど「みんなの世界」はこの子にとって楽しいものなのかなあ

実はどれも私たちが持つ気持ちや悩みと同じだったりしませんか？

4 発達障害児と集団づくり

- ・まずは私たちの子ども観はどうなのでしょう
発達障害児ということばが一人歩きしていないだろうか
発達障害児である前にひとりの子どもとして見よう

私たちは子どもの気持ちにどれだけ共感できているだろうか
「困った子は困っている子」という共感的理解こそ

子どもはおとなの力で変えることができるのだろうか
子どもは自分で変わる→発達とは自己運動

- ・子どもが変わるきっかけは子どもたちの中にある
「気になる子」は集団の中でどう位置づいているか

集団の力を借りる
子どもたちはおとなの背中を見て育っている

集団が育っていないと、子どもも育たない

- ・どの子ども育つ集団のつくりかた

①学童を安心できる場所にする
スタッフはどの子どもにとっても「大好きなおとな」でありたい

「困った時には必ずスタッフがいるよ」という安心感

子どもの気持ちを汲み取り、共感してくれるおとながいることは何にも代えがたい安心感に

- ②嬉しいことも困ったことも子どもたちと共有

さりげないことであっても、必ず子ども集団に返していく、そのことが他者への関心や「オンナジ」の安心感を育てていく

③おとなも学童の仲間のひとり

自分の感情に気づく

自分の感情をことばで表現する

子どもたちの力を借りて解決の方策を考えあつていく(話し合いの大切さ=子どもたちへの信頼)

④その他もろもろのこと

発達障害児にありがちな悪循環(p5 参照)

子どもなりのわかり方を大切にしよう。また子どもの自己肯定感を低めない工夫を
自己肯定感は「自信」をつけていくことで形成されるものではないことを肝に銘じて

だんだん変化していく自分、まんざらでもない自分への気づきを与える

発達障害の子どもを対象化するのではなく、あくまでも生き生きとした集団づくりを中心に考える

トラブルは集団づくりのチャンス → 職員はそれぞれの仲立ちで互いの思いを伝える役割を

5 関係者との連携

①学校及び担任

学校生活と連続する活動ゆえ…

- ・学校でのトラブルを消化できないまま帰ってきて、イライラした状態が続く
- ・楽しくて嬉しい気分の興奮状態のまま帰ってくることも…

連絡帳の活用ほか、適宜担任と面談を行い、互いの場での活動のようすをフィードバック

②主任児童委員(民生委員)との連携=子どもを取り巻く家族や地域づくりのために

主任児童委員=各地域に必ず1名委嘱されている「子ども専門の」民生委員
地域に存在する子ども・保護者の問題や課題を把握し、福祉的観点からコーディネータ

③相談支援事業所との連携=福祉サービスの利用により、児童および家族のQOLを改善

基幹型相談支援事業所

市の委託を受けた事業所3箇所で基幹型を運営

発達相談から家族関係の調整まで、いわば何でも屋のコーディネータ

特定相談支援事業所

福祉サービスを利用する場合の、サービス利用計画書(ケアプラン)を作成・管理

④保護者および保護者会との連携

保護者

子どもが安定した家庭生活を送る上で、またとなく不安定となりがちな家族(保護者)の心理サポートを行う上で家庭との連携は重要

連絡帳の活用、送迎時の報告等

保護者会

発達障害児やその保護者は「しつけのなっていない子」もしくは「しつけのできない保護者」として孤立しがち

当事者を孤立させないためにも、保護者会の役割は重要

